

令和5年度 地域部活動推進事業

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

(運動部活動の地域移行に向けた実証事業)

文化部活動の地域移行に向けた実証事業

富山市教育委員会 学校教育課

1 実証事業の拠点校・競技

【運動部活動】

- 富山市立堀川中学校
 - ・女子バレーボール部
 - ・柔道部

- 富山市立和合中学校
 - ・軟式野球部
 - ・陸上競技部

【文化部活動】

- 富山市立奥田中学校
 - ・吹奏楽部

・地域クラブ活動の先行実施
・コーディネーターの確保

- ・市内中心部
- ・公共施設が少ない環境

- ・広大な学校敷地
- ・校区外のスポーツ施設の活用

- ・教員と外部指導者の協働
- ・学校と地域クラブの役割の明確化

2 実証内容

- ①学校と地域が連携し、地域一帯となって生徒を支援する体制を構築するための連絡・調整を図る**コーディネーターの配置**
- ②学校と地域クラブが互いの認識やニーズの共有を図り、よりよい連携について協議する**検討会議の設置**
- ③持続的な運営とするため、クラブでの活動で発生する**費用の負担方法の検証**

3 成果（10月中間報告）

指導者の確保	【大学との連携】 <ul style="list-style-type: none">・ 大学生に活動のアシスタントやサポートを依頼することで、指導者の人手不足の解消や模範演技等を通じた具体的な技術指導につなげることができた。
	【指導者の評価システムの検討】 <ul style="list-style-type: none">・ 公式戦単位または、年間単位でグッドコーチの選出や表彰を行うことで、指導者の質の向上につなげることができる。
	【オンラインレッスンの導入】 <ul style="list-style-type: none">・ 交通費や宿泊費等の出費を抑えながら、県外等の遠方にいる専門家の一流の指導を受けることができた。
活動場所の確保	【練習試合の依頼】 <ul style="list-style-type: none">・ 活動場所の確保が困難なときは、市内の中学校や高等学校に練習試合を依頼することで、練習量の確保につながった。

3 成果（2月最終報告）

指導者や 部員（クラブ員） の確保	【チーム関係者との連携】 <ul style="list-style-type: none">・ 過去にチームに所属していたクラブ員を指導者に充てることで、活動方針等の円滑な継承につなげることができた。
	【地区の体育協会との連携】 <ul style="list-style-type: none">・ 地区のスポーツ会議に出席し、中学校の部活動の現状を説明したり、指導者募集の依頼をしたりすることで、指導者の確保につなげることができた。
	【地域行事への参加】 <ul style="list-style-type: none">・ 自治振興会が協賛する活動への参加を通して、小学生や地域の方に活動内容を発信でき、興味・関心を高めるきっかけをつくることができた。
財源の確保	【地元企業等との連携】 <ul style="list-style-type: none">・ 県外の地域クラブチームとの交流を通して、月謝の徴収以外に、スポンサーとの契約を結ぶチームも見られた。

4 課題（10月中間報告）

指導者や 部員（クラブ員） の確保	【平日の指導】 <ul style="list-style-type: none">・ 夏季休業等、学校の長期休暇期間は、教員の指導による活動が望まれる。
	【指導体制の確立】 <ul style="list-style-type: none">・ 合同チーム等、活動エリアが広がった場合、指導方針のすり合わせや活動場所の選定、費用負担の検討等について協議が必要である。
	【活動エリア】 <ul style="list-style-type: none">・ 地域クラブ化に向けて、学校単独のチームとするか、近隣の学校との合同チームを結成するかの判断が難しい。
活動場所の 確保や管理	【安定した活動場所の確保】 <ul style="list-style-type: none">・ 長期的に充実した活動を行う上で必要不可欠である。
	【企業等との連携】 <ul style="list-style-type: none">・ 学校施設を有効活用しながら、雨天時や冬場の活動を想定した活動場所の確保が望まれる。
	【休日等の学校施設の利用】 <ul style="list-style-type: none">・ 施設の利用に制限がある状態での楽器の運搬やトイレの利用に不便を感じている。
金銭面での負担	<ul style="list-style-type: none">・ 施設使用料等、保護者の負担が大きい。

4 課題（2月最終報告）

指導者や 部員（クラブ員） の確保等	【広報活動の充実】 ・所在地や活動内容等、地域クラブの情報発信に努め、体験活動等を通して、自分に合った地域クラブを選択できるシステム構築が望まれる。
	【指導者間の連携】 ・活動目的や内容について、学校部活動と地域クラブ活動における双方向の情報共有と専門的な研究の機会が必要である。
	【人材バンク等の活用】 ・大学生の活用に加え、経験豊富なシニア世代の協力が必要不可欠である。
活動場所の 確保や管理	【地域の情報収集】 ・スポーツ少年団等との連携を視野に入れて地域移行を検討していく場合、活動日時や場所等の情報収集が円滑にできるシステムがあるとよい。
	【企業やスポーツ協会等との連携】 ・学校施設を有効活用しながら、雨天時や冬場の活動を想定した活動場所の確保が望まれる。
金銭面での負担等	【サポート体制の整備】 ・家庭環境等による負担差の解消や上位大会等への出場に必要な支援体制等の仕組みづくりが必要である。
	【費用対効果】 ・月謝等の指導者報酬を得ることにより、費用対効果を意識しながらの指導につながる恐れがある。

5 課題解決に向けて

指導者や 部員（クラブ員） の確保	【コーディネーターによる連携の強化】 <ul style="list-style-type: none">・学校（顧問の教員等）と地域クラブ指導者に現状を報告するとともに、生徒の実態と生徒、保護者のニーズを的確に把握し、新たな人材の発掘に努める。
	【人材の有効活用と広報活動の充実】 <ul style="list-style-type: none">・教員の兼職兼業、部活動指導員やスポーツエキスパートの活用に加え、応援企業や人材バンクの活用、大学との連携も視野に入れる。・地域移行に向けた今後の方向性等を周知していく。
活動場所の 確保や管理 金銭面での負担	【コーディネーターによる連携の強化】 <ul style="list-style-type: none">・学校（顧問の教員等）と地域クラブ指導者に現状を報告するとともに、生徒の実態と生徒、保護者のニーズを的確に把握し、新たな活動場所の発掘に努める。
	【学校施設の利活用】 <ul style="list-style-type: none">・「学校体育施設等開放事業」の拡充に努める。
	【サポート体制の整備】 <ul style="list-style-type: none">・経済的な負担がある家庭や上位大会出場等への支援体制を検討する。・「部活動地域移行促進公立学校施設整備費補助金」の有効活用を検討する。

富山市立中学校の部活動が**変わる**（案） ※令和5，6年度検討・調整

改革推進期間

地域クラブ活動の充実

令和5年度

令和6年度

令和7年度

令和8年度

【平日】 学校部活動を継続

※ 部員数の減少や競技特性等により継続的な運営が厳しい部を廃止するなど、部活動のスリム化を図る

【休日】

「学校部活動を継続」または、
「学校や地域の実情に応じて、可能なところから地域連携・地域移行を進める」

○参考（R5.5.01現在）

【部活動数】

- ・運動部 434（男子 208 女子 226）
- ・文化部 95
- ・合計 529部

【生徒数】9,814名

【部活動加入者数（割合）】
8,606名（87.7%）

【富山市の取り組み】

- ①受け皿となる「地域クラブ」の確保
 - ・指導者…部活動指導員（13名）の増員、スポーツエキスパート（78名）や外部指導者の活用、教員の「兼職兼業」システムの構築
 - ・活動場所…学校施設を中心に展開
- ②関係機関と連携し、人材や活動場所の確保
- ③令和8年度までの動き等を学校・家庭・地域に向けて発信

【休日】

学校部活動は、大会出場に向けての練習試合等、必要な活動に限定し、ガイドライン（*）に則り実施する。

* 学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方に関する総合的なガイドライン（令和4年スポーツ庁 文化庁）

【参考】

- ・平日、休日ともに地域クラブ活動に参加している生徒は、学校部活動（平日、休日）には参加しない。
- ・地域連携・地域移行した部の生徒は、平日は学校部活動、休日は地域クラブ活動に参加する。